

中国コンテンポラリーアートの「場」としての芸術区の役割

The Role of Art Districts as “Place” of the Chinese Contemporary Art

章 璐
Zhang Lu

1. はじめに

(1) 研究の背景

(i) 中国コンテンポラリーアートの「場」の概念

芸術の「場」とは、物理的な空間だけを意味するのではなく、芸術の体験やアイデアの共有といった空間の意味を伴うものである^{注1)}。芸術の「場」は社会における文化的コンテキストや作品に対するコミュニケーションを包含するものである。具体的には「創作の場」、「実験の場」、「展示の場」、「販売の場」、「交流の場」、「批評の場」、「芸術事業推進の場」という七つの主要な要素がある。上記の要素の中の、「実験の場」は、現代社会における既存概念を転覆させ、超越し、新たな概念を検証する「場」であるため、中国コンテンポラリーアートの文脈において一番重要だと考えている。

(ii) 研究の背景

1977年、文化大革命が終わった後、中国には各美術団体や美術運動が生まれた。中国コンテンポラリーアートは急速に成長し、こうしたアートが中国大陸に認められていなかった時代にも自由な創作環境を求めて、作家は都心から離れた北京郊外に集まって、芸術区を形成した^{注2)}。中国政府のコンテンポラリーアートへの対応は、当初の強い規制から、黙認の段階を経て、経済的な利益を認められるかたちへと変化した。21世紀には中国コンテンポラリーアートは海外に注目されたため、2006年に中央政府の公文書に正式に中国コンテンポラリーアートを「文化創意産業」の一部として、コンテンポラリーアートへの政府からの政策的な支援が始まった^{注3)}。政府の方針の大きな転換によって、アートを政府に産業として認知され、中国のコンテンポラリーアート界には急激な変化が生じた。中国政府には芸術区の経済的な利益だけに注目し、観光地化や過度な商業化によって変化した芸術区は、市場に迎合する作品の画一化が見られ、現在の中国コンテンポラリーアート市

場に悪い影響を与える。一方、来訪者が少ない芸術区は政府に重視されず、都市開発による立ち退きや取り壊しで、場所が失われる可能性もある。こうした背景から、中国コンテンポラリーアートの視点から芸術の場としての芸術区の役割を再評価する必要がある。

(2) 研究の目的、方法

本研究の目的は対象の芸術区の活動、運営等の現状を調査し、「場」の特徴と変容を把握し、「芸術区」の変容とその要因である社会背景から中国現代アートの発展における芸術区の位置づけを明らかにすることを目的とする。さらに、対象地芸術区の異同及び問題点を明確にし、芸術区の今後のあり方を考察する。

研究の方法は文献調査と現地調査およびヒアリング調査による。文献調査は中国の主要な美術雑誌の芸術区に関する記事及び資料を対象とする。北京における芸術区の形成、芸術区で開催された展覧会、芸術イベントに関する論考を中心に分析する。現地調査は798芸術区と草場地芸術区を対象に、利用状況を把握する、ヒアリング調査は、芸術区の管理者、ギャラリーの関係者、若手作家などの人々23名を対象にする(表1)。

表1 ヒアリング者一覧表

芸術区管理者	798 管理委員会（斎）	草場地村書記（張） 草場地村民委員会（劉）
ギャラリー関係者	三藩画廊（藩） 索卡艺术中心（李） 玉蘭堂（王） 橋舍画廊（劉）	前波画廊（魯） 香格納（朱） 戰台中国（孫）
若手作家	苑媛、李亮、劉旭、馬炎、	劉光光、顔石林
その他	領袖服装工作室（向） 宋莊芸術促進会（曹） 宋莊鎮政府（張） 宋莊大宋旅行社（王）	艾未未アトリエ（馬） 夏彦国（キュレーター） 「HI ART」雑誌社 田甜

2、中国コンテンポラリーアートの歴史と北京における芸術区の形成

(1) 中国コンテンポラリーアートの歴史

中国コンテンポラリーアートは明確に定義されていない。世界のコンテンポラリーアートの一部であるが、歴史的には 1979 年『星星画会』の『星星美展』がその原点だと言われている^{注4)}。1989 年までは、中国現代美術は、ほぼ「アンダーグラウンド」の状態で開催されていた。1989 年の天安門事件の後、2006 年までは、中国コンテンポラリーアートは、海外で影響があったため、徐々に中国国内に展開され、政府に黙認された。2006 年に中国中央政府は「国家「十一五」時期文化発展規画綱要」と「文化建設「十一五」規画」を公布し、コンテンポラリーアートを「文化創意産業」の一部とし、政府からの政策的な支援が始まった^{注5)}。この二つの「規画」以降は一転してコンテンポラリーアートの経済的な利益が認められるかたちとなったのである。政府のコンテンポラリーアートへの対応は、当初の強い規制から、黙認の段階を経て、政府と芸術関係者との積極的な協力体制の構築へと大きく変化した。

(2) 北京における芸術区の形成

中国の「芸術区」の概念はまだ明確ではなく、「画家村」や、「芸術家聚集区」などの名称が用いられることもある。「芸術区」という言葉は英語の「Art District」や「Artist District」、「Art Zone」などの中国語訳だと考えている。2006 年から北京市は「文化創意産業」に力を入れたために芸術区が乱立し、近年では、「芸術区」は「文化創意産業園区」の一部として管理されている。現在、北京における芸術区は大小合わせて 27 ヶ所である。形成過程から三つに分類することができる。作家が自発的に集まって形成された芸術区(11 件)、民間企業が開

発した芸術区(13 件)、政府が計画し開発した芸術区(3 件)である。前者二つの芸術区はすべてが順調に発展しているわけではない。1990 年代、芸術区の解散の要因は政治的な理由だったが、2000 年以後には都市開発の影響や、土地の不法利用が主である。1990 年以後の北京にできた芸術区の数(図1通りである。2006 年～2007年に形成された芸術区の数が一番多いことが分かる^{注6)}。これは中国コンテンポラリーアートの歴史と対応している(図2)。2006 年の政府の施策が芸術区の形成に大きいな影響を与えたことがわかる。

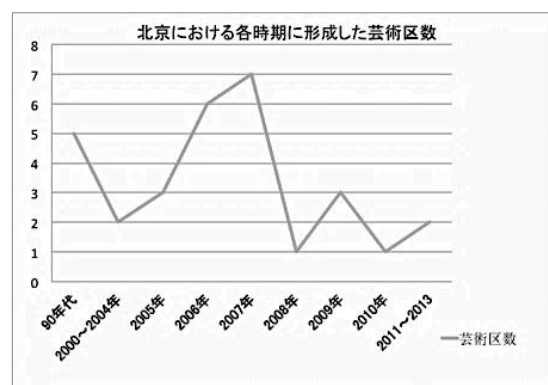


図1 北京における各時期に形成した芸術区数

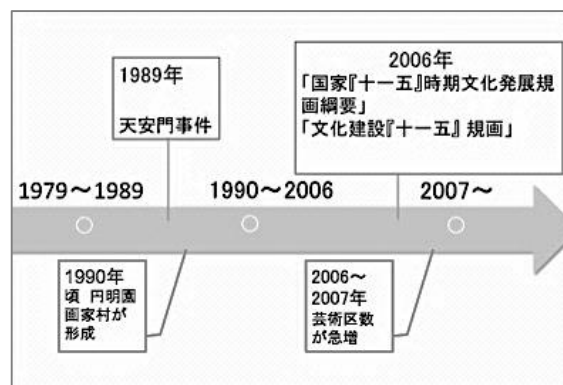


図2 芸術区の形成と中国コンテンポラリーアートの歴史

3、事例研究—798 芸術区、草場地芸術区

(1) 798 芸術区

(i) 概要

「798 芸術区」(以降「798」と略する。英語:798 Art Zone)は北京市の北東の朝陽区に位置し、北京市中心部にある天安門から約 15 キロメートル離れている。面積は 23 万平方メートルであり、工場だった建物は貸し出され、芸術関係の施設や観光施設としてリニューアルされている(写真1)。「798」の歴史は、「1957 年～1996 年の軍工場として使用されていた段階」、「1996 年～2005 年作家が自発的に集まり、「798」を形成した初期

の段階」、「2006年から～現在まで、北京市政府（行政）が介入し管理する段階」という三期に区分される。「798」は世界各国のアーティストが活動としているだけではなく、観光やアート交流の場としても知られ、一般の来訪者も多い。現在、「798」の芸術関連施設の比率は減少していて、反対に芸術以外の飲食店や店などの施設は増加している（表2）。



写真1 「798」の建物の様子 2013年3月 筆者自撮

（ii）798 芸術区中国コンテンポラリーアート

「798」は毛沢東時代の左派政治を表す古い工場の空間をそのまま再利用したため、「文革」の記憶が刻まれた展示環境が作品と融合し、左派意識とコンテンポラリーアートの自由意識の衝突から、「対立する統一」という共生関係が生み出されている。「798」は観光地化が進み、地価が上昇したさらに、管理組織による作品の検閲があるため、「798」のギャラリーは一般に迎合し、かつ政府が認める作品の展示が増加した。「革命」や「共産」、「社会主義」を表面的に象徴する「レッドポップ」のような作品は、政治的な主張がなく、記号化された現象はアート創作の単調化や、創作行為そのものの実験性の喪失につながる。

（iii）798 芸術区の関連イベント

「798」では大きなイベントが三種類ある。一般向けの「798 芸術祭」、子供向けの芸術教育を目的とする「798 国際児童芸術祭」、美大生や若手作家向けの「青年芸術100」である。そのうち、798 芸術祭は、2004年の第一回は画家、画廊が主催したが、2007年から798 芸術区管理委員会、朝陽区役所にかわった。そして、2011年以降はキュレーターを雇用しなくなった。「798」は観光客が多いため、芸術祭の期間の出品作品も管理者によって検閲されている。一方で、観光地化や政府（行政）の介入が要因で、芸術祭が芸術関係者から一般に広がった。同時に、中国コンテンポラリーアートに対する学術的な検討や実験の場が失われた。

（iv）798 芸術区構内のギャラリー

現在、「798」構内のギャラリー数は145件である^{注7)}。

「798」の主要なギャラリーとして、中国コンテンポラリーアート雑誌『BAZAAR ART』の「2011～2012 年度中国ギャラリーランキング100」^{注8)}に掲載された43軒について現状を述べる。この43軒を取り上げた理由は、「798」の中でも芸術市場への影響が大きく、芸術の場を担うギャラリーであると考えられるためである。経営資本は、43軒中中国大陆が23軒、外資は18軒、合資のものが2軒であり、中国のギャラリーの割合が一番多い（図3）。図4に表示した通り、43軒のうち39軒（91%）はおもに油絵を展示し販売している。「798」のギャラリーは作家と「合作」という契約をしている。「合作」の形態も多様である。例えば、作家が画廊を展覧会の場所として借りる場合、画廊が企画展をする時だけ作家に依頼して作品を借りて展示する場合、企画展のために作家が作品を新しく制作する場合、などである。「合作」という方式はギャラリーにとって、作家への投資が少なく済むため、ローリスクで柔軟な方法である。「798」が大部分のギャラリーは、特に若手作家に対して、この方式を採用しているということである^{注9)}。

（v）798 芸術区の管理組織

「798」では、図5のように国有企業である「七星集団」と朝陽区政府が共同で設置した「798 芸術区建設管理オフィス」、「798 文化創意産業有限公司」、政府機関としての「798 管理委員会」が主要な管理組織である。特に2010年に設置された「798 管理委員会」は、「798」施設の調整や、産業の促進などの業務を行っているが、行政の立場から作品を監理している。「798」構内の中国コンテンポラリーアートの創作や展示活動にとっては大きな障害であると考えられる。

表2 2003年～2013年「798」構内施設の変化

年度	芸術関連 施設数	芸術関連 施設数の 比率	芸術以外 施設数	芸術以外 施設数の 比率	合計
2003年	24	63%	14	37%	38
2004年	49	65%	26	35%	75
2005年	59	57%	44	43%	103
2006年	138	68%	65	32%	203
2008年	163	67%	82	33%	245
2009年	193	65%	104	35%	297
2012年	207	53%	183	47%	390
2013年	159	41%	235	59%	394

（2003年～2009年『艺术区的解构与建构——北京798芸術区田野考察筆記』劉明亮（2010）；2012年：羅忠学『798 芸術生態調査』『投資と理財』2012年09月下半期 pp76～78；2013年：筆者現地調査より作成）

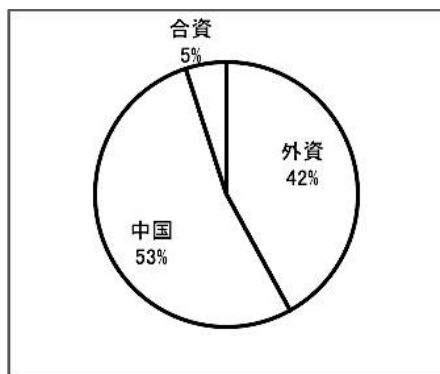


図3 「798」構内ギャラリーの資本分類

(『BAZAAR ART』の『2011～2012 年度中国ギャラリーランキング 100』および各ギャラリーのホームページより作成)

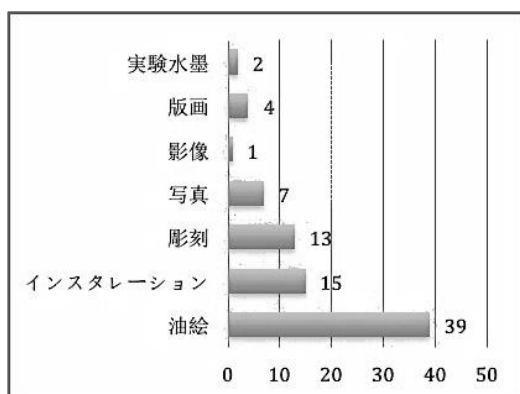


図4 「798」構内各ジャンルの作品を展示し販売するギャラリー数
(筆者 2013 年 8 月に現地調査より作成)

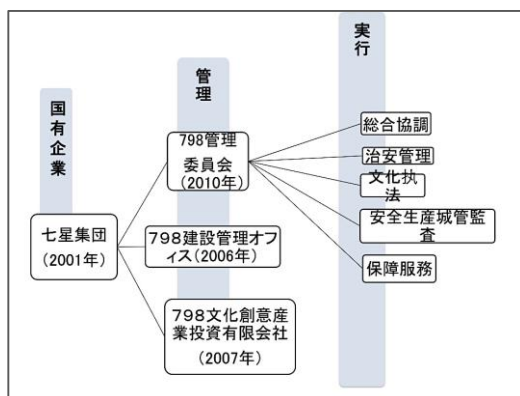


図5 「798」の各管理組織の関係

(2010年9月20日『人民日報』の新聞記事「北京798、創意の花を咲く」及び798管理委員会斉氏にヒアリングより作成)

(2) 草場地芸術区

(i) 概要

草場地芸術区(以降「草場地」と略する。英語:Cao Chang Di Art District)は北京市の北東の朝陽区崔各郷草場地村に位置し、天安門から約 17 キロメートル離れている。「草場地」は、作家が自発的に

集合した初期の段階、と業者による芸術区の開発以降の二期に区分される。「草場地」は艾未未の影響を強く受けていて、グレーのレンガと直線的なデザインが建物の特徴である(写真2)。建物にも艾未未の政治的な思想が反映されている。現在、草場地村の芸術区の面積は約 199800 平方メートルを占め、地域の住宅地と混在している状態である^{注10)}。また、公共交通が不便で、観光的施設少ないため、観光客は少なく、芸術関係者が主な来訪者である。

(ii) 草場地芸術区中国コンテンポラリーアート

「草場地」では、艾未未の「中国本土の資源を詩的な風刺としてコンテンポラリーアートの文脈に乗せ、伝統を覆す」というコンセプトで、実験的な芸術活動を行っている^{注11)}。そして、中国社会に対する関心を背景にしながら、中国コンテンポラリーアートをさまざまな形式で表現する可能性に挑戦している。例えば、草場地工作戦というアトリエで制作された記録映画「民間記憶」プロジェクトは、「三年飢饉」を経験した中国の農民を対象に、2012年までの4年間で700人あまりを取材した記録である。芸術家だけではなくさまざまな立場の人が参加した「民間の記憶のドキュメントを構築する」という実験的な試みである^{注12)}。作品における新たな観念を「創造」し、様々なジャンルの作品として発信しているのが草場地芸術区の中国コンテンポラリーアートの特徴であると考えられる。

(iii) 草場地芸術区関連イベント

「草場地」で大きなイベントは二種類があり、それぞれが一般向けの「北京デザインウィーク」、芸術関係者向けの「草場地撮影季」である。草場地撮影季とは写真と映像などの作品を中心に、展示や講演会など芸術交流活動を行うイベントである。芸術施設が主催し、「草場地」構内のギャラリーが参加する。このイベントの特徴は学術性を重視し、撮影作家の交流や撮影の観念の新たな発見、若手作家の支援を目的としているところである。

(iv) 草場地芸術区構内のギャラリー

現在「草場地」構内のギャラリー数は34軒ある。ギャラリーの経営資本は、34軒中、中国が17軒、外資は14軒、合資のものが3軒である。図6に示すように、中国資本はギャラリー全体の半分(50%)を占めている。展示作品は図7に示した通り、34軒のうち27軒(80%)は油絵である。「草場地」では映像、写真、版画など油絵以外のジャンルの作品を展示するギャラリーは「798」より多い。「合作」という柔

軟な契約方式を採用しているギャラリーがある一方で、一部のギャラリーは「代理」という伝統的な契約方式を採用している。「慎重に将来性がある作家を選ぶため、契約年数が場合によって違うが、作家に安定収入を保証することで、作家との信頼関係が保てる」という注¹³⁾。

(v) 草場地芸術区の管理組織

草場地芸術区が所在する草場地村の行政等級は「村」であるため、県や郷と異なり、土地利用や事業計画などの権限がない。そのため統一して全体を管理する組織がなく、展示内容を含む芸術関連施設の管理には基本的に関与しないため、自由な創作環境がある。図8のように、草場地芸術区の管理組織は家賃の受け取りや、安全衛生などの基本的なサービスのみを提供している。



写真2「草場地」の建物の様子 2013年3月 筆者自撮

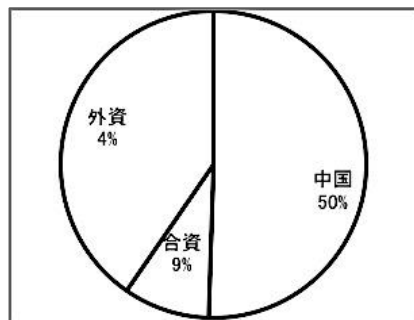


図6「草場地」構内ギャラリーの資本分類
(各ギャラリーホームページより作成)

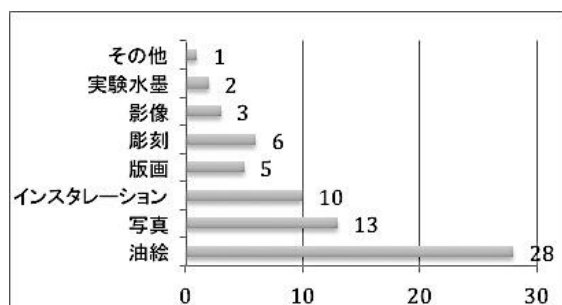


図7「草場地」構内各ジャンルの作品を展示し販売するギャラリー数

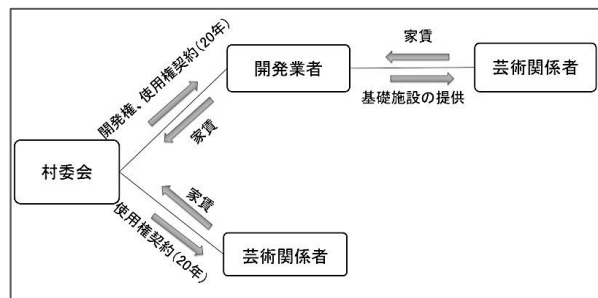


図8「草場地」の各管理組織の関係

(草場地村村民委員会党書記張氏にヒアリングより作成)

4. 結論

(1) 考察: 対象地芸術区における中国コンテンポラリーアートの「場」の異同

(i) 共通点

二つの芸術区ともにはじめは作家が自発的に集まった事により形成された。いずれも油絵を主に展示し、販売している。また、若手作家を育成するために芸術イベントを開催し、若手作家が芸術市場へ進出する機会を作っている。

(ii) 相違点

「798」構内のギャラリーは管理者に監理され、現在の中国社会や政治を批判する作品を出すことが難しく、観光地化によって、ギャラリーの経営コストが高くなり、一般の来訪者の好みにあわせた販売や展示が増加した。そして、「レッドポップ」といった「中国」という国を対象を特定するローカル(local)な芸術様式が生まれ、アートの創作内容およびジャンルが画一化し、中国コンテンポラリーアートに対する学術的な検討や実験の場が失われた。一方で、一般の人々が、日常生活の中で中国コンテンポラリーアートと出会う機会が広がった。

「798」は「創作の場」、「実験の場」が失われて、「展示の場」、「販売の場」、「交流の場」、「批評の場」、「芸術事業推進の場」を継承した。

草場地では作家艾未未の進出による影響を強く受けている。家賃は比較的安く、ギャラリーは作品の展示と販売など芸術的な活動に特化されている。草場地では中国コンテンポラリーアートの様々な実験的な表現形式や内容を試みているため、展示作品は798芸術区にくらべ、外国作家の進出や、多様なアートの表現形式などのグローバル化の傾向がある。一方で、管理組織には大規模な芸術イベントを主催したり、広報したりする力がないため、社会の

注目度は低く、一般市民への広がりが少ない。草場地は「創作の場」、「実験の場」、「展示の場」、「販売の場」、「批評の場」を継承しているが、「交流の場」、「芸術事業推進の場」としては十分ではない。

(2) 結び

本研究では中国コンテンポラリーアート的发展過程において、芸術区は文化の多様性や、民主思想の表現、実験性観念の伝達、芸術の普及などの場を提供するという役割が明らかになった。理想な芸術の場になるためには、以下の3つが考えられる。

まず、中国では、政府が国の文化の発展の計画や方針を定めるため、中国コンテンポラリーアートの推進には、政府の認可や支援が必要である。政府が中国コンテンポラリーアートに自由な創作、展示の環境を与え、芸術活動を支援する体制ができれば、芸術区は中国コンテンポラリーアートの発展により大きな役割を果たすと考えられる。

次に、芸術関係者は積極的に「実験的」な態度を保つことが必要である。実験的な作品の創作には、作家が政府や一般人の嗜好、市場に左右されることなく、自分の芸術のコンセプトを表現しなければならない。そして、芸術施設は相互に協力し、芸術区の自治制を敷き、作家の創作サポートし、コンテンポラリーアートを普及するイベントを開催する必要がある。

最後に、市民にはコンテンポラリーアートを享受する姿勢が望ましい。関連イベントに参加し、作家の創作を体験し、中国コンテンポラリーアートをもっと理解することが望ましい。

参考資料

- 1) 中森義輝:「知識構成システム論」丸善出版社p3、2010
- 2) 王金昭:「場所及び空間の分析を基に於いての北京における芸術区の研究」北京建築工程学院、2008
- 3) 于長江:「宋荘:世界的な背景における芸術群落」『芸術評論』(11)、pp26-29、2006
- 4) 羅忠学:「798 芸術生態調査」『投資と理財』pp76~78、2012
- 5) 劉明亮:「芸術区の解構と建構—北京 798 芸術区田野調査筆記」内モンゴル大学美術学院学報 pp11-18、2010
- 6) 劉伯英、李匡:「北京工業建築遺産保護及び再利用の体系に関する研究」清華大学建築学報(12) pp1-6、2010
- 7) 『BAZAAR ART』ホームページ
<http://www.bazaarart.com.cn/fengmian/489.htm>

8) 草場地工作戦

ホームページ <http://www.ccdworkstation.com/>

9) 艾未未作品「Sunflower Seeds」ホームページ

<http://www.aiweiweiseeds.com/>

10) 星星画会ホームページ

<http://www.shigebao.com/html/articles/hui/3180.html>

11) 範迪安:「芸術区:都市の「ミトコンドリア」」『北京計画建設』 2005 年 05 期 p100

12) 中華人民共和國中央人民政府ホームページ

http://www.gov.cn/jrzq/2006-09/13/content_388046.htm

13) 2010 年 9 月 20 日『人民日報』新聞記事「北京 798、創意の花を咲く」

注釈

注 1) 参考資料 1) に参考し定義した。

注 2) 参考資料 11) より

注 3) 注 5) 参考資料 6) 12) より

注 4) 参考資料 10) より

注 6) 参考資料 4) 5) より

注 7) 筆者 2013 年 8 月に現地調査より

注 8) 参考資料 7) より

注 9) 玉蘭堂画廊にヒアリングより

注 10) 参考資料 2) より

注 11) 参考資料 9) より

注 12) 参考資料 8) より

注 13) 香格納画廊にヒアリングより